

令和5年度 授業改善推進プラン教科別計画 【家庭科】

学年	作成者	現状分析による課題	具体的な改善策 「いつまでに」・「どのように」・「どの程度」	
			短期的な改善策	中・長期的な改善策
1年	山岸	①生活体験の不足により、生活実感が持ちにくい。 ②被服実習への取組は全体的によい。説明を聞く姿勢ができていない生徒や材料の保管や手順の説明の理解に時間がかかる生徒がいる。 ③小学校での既習事項の定着に差がある。 ④積極的に授業に取り組む生徒が多いが、宿題などの提出物への取組に課題がある生徒が何人かいる。 ⑤一部の生徒に忘れ物が見られる。	①授業の中で、できるだけ多く自分の生活を見つめる場面を設定する。 ②実習は、タブレット、書画カメラ、動画を用いて、作業手順を理解させやすくし、一人でも作業や実技ができるようにする。 ③小学校の復習も含め、技能の定着を促す。 ④授業に積極的に参加ができるような工夫をしていく。 ④グループワークを増やす。 ⑤提出物の取組を促す。	①家庭や将来の自分の生活にどのように生かせるかを考えさせたり、まとめさせたりして実践しやすいような働きかけをする。 ②プリントの内容を見直して、生徒の理解につながるように作り直す。（記入量や言葉の使い方など） ③実習しやすい教室環境を整える。
2年	山岸	①生活体験の不足により、生活実感が持ちにくく、課題の発見が難しい生徒がいる。 ②積極的に授業に取り組む生徒が多いが、宿題などの提出物への取組に課題のある生徒が何人かいる。 ③一部の生徒に忘れ物が見られる。 ④興味ある分野とそうでない分野の差があり、学習への取組に差がある。	①生活の中の具体例でわかるように、映像の活用を効果的に行う。 ②体験的な学習の前後には、課題設定や活動したことをまとめる活動を取り入れる。 ③示範や実際の教具を見せるなど見て理解しやすい教材を取り入れる。 ④他教科での既習事項を絡めて学習の定着を促す。	①家庭や将来の自分の生活にどのように生かせるかを考えさせたり、まとめさせたりして実践しやすいような働きかけをする。 ②プリントの内容を見直して、生徒の理解につながるように作り直す。（記入量や言葉の使い方など） ③実習しやすい教室環境を整える。 ④スモールステップの導入、自己肯定感の育成など成功体験を増やして前向きに取り組ませる。
3年	山岸	①保育分野の内容に興味をもてず、授業に取り組むのが難しい生徒がいる。 ②異年齢の子どものふれあい体験に差があるため理解力に差がついている。 ③生活体験の不足により、生活実感が持ちにくく、課題の発見が難しい生徒が多い。 ④2週間に1度の授業で、学習内容の定着・発展が難しい。 ⑤一部の生徒に忘れ物が見られる。	①授業の中で、できるだけ多く実際の生活を見つめる場面や自分の体験から考える場面を設定する。 ②視覚に訴える教材を用いるなど、興味を引き出す工夫をする。 ③体験的な学習の前後には、課題設定や活動の様子をレポートにまとめるなどの活動を取り入れる。 ④提出物の取り組みを促す。	①家庭や将来の自分の生活にどのように生かせるかを考えさせたり、まとめさせたりして実践しやすいような働きかけをする。 ②プリントの内容を見直して、生徒の理解につながるように作り直す。（記入量や言葉の使い方など） ③自分の一生との関連を持たせ、進路学習やライフプランと関連付けた取り組みを促す。